令和6年度 第1回江別市廃棄物減量等推進審議会
議事録

令和6年7月26日

令和6年度第1回江別市廃棄物減量等推進審議会議事録

日 時	令和6年7月26日(金)14時00分～15時10分
場 所	環境クリーンセンター 2階 大会議室
出席委員	浅川会長、北川委員、河野委員、金委員、中井委員、名古屋委員、日高委員、星委員、森田委員、森山委員、吉田委員(11名)
欠席委員	今林委員、佐藤委員(2名)
事務局	谷口環境室長、山崎廃棄物対策課長、岡山施設管理課長、中村廃棄物対策課主幹(計画推進担当)、石川施設管理課主幹(設備担当)、西川施設係長、方波見指導係長、坂本庶務係長、佐々木減量推進係長、奥泉減量推進係主事(10名)
傍聴者	2名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事(議題) <ol style="list-style-type: none"> (1)報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 江別市環境クリーンセンター延命化工事の進捗について ・ ごみ処理手数料改定・収集日等見直しに係る市民周知の状況について ・ ペットボトルの水平リサイクルについて ・ 電子たばこの収集方法の変更について (2)その他 4. 閉会(閉会后、環境クリーンセンター視察見学)
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・関係市職員名簿 ・資料1 江別市環境クリーンセンター延命化工事の進捗について ・資料2 ごみ処理手数料改定・収集日等見直しに係る市民周知の状況について ・資料2の2 ごみ処理手数料改定・収集日等見直しに係る市民説明会質疑応答の概要 ・参考資料 ごみ処理手数料改定・収集日等見直しに係る市民周知用チラシ ・資料3 ペットボトルの水平リサイクルについて ・資料4 電子たばこの収集方法の変更について

▼会議内容

【開会】

○山崎課長

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

定刻となりましたので、令和6年度第1回江別市廃棄物減量等推進審議会を開会させていただきます。司会進行担当いたします廃棄物対策課長の山崎でございます。

なお、本日は生活環境部長の近藤、同じく次長の千葉が要務のため、欠席しておりますので、ご報告いたします。

次に、本日お配りした資料について確認させていただきます。

本日の資料といたしましては、「次第」、「関係市職員名簿」、「資料1江別市環境クリーンセンター延命化工事の進捗について」、「資料2ごみ処理手数料改定・収集日等見直しに係る市民周知の状況について」、「資料2の2ごみ処理手数料・収集日等見直しに係る市民説明会質疑応答の概要」、「5月と7月に全戸配布した周知用チラシ」、「資料3ペットボトルの水平リサイクルについて」、また、追加の報告事項として「資料4電子たばこの収集方法の変更について」をお配りしております。

次に、本日の審議会についてですが、本審議会は、江別市廃棄物の処理及び資源化・再利用の促進に関する条例施行規則第4条の規定により、過半数の委員の出席をもって成立することとされており、本日は、今林委員、佐藤委員より、所用により欠席という事で、事前にご連絡をいただいております。全委員13人中11人の委員のご出席により、過半数を超えておりますことから、本会議が成立しておりますことをご報告いたします。

次に、廃棄物減量等推進審議会の公開につきましてご説明いたします。市では江別市情報公開条例第18条の規定により、市民の市政への参画を促進するとともに、公正で透明な市政を推進するため、審議会等は支障のない限り公開を原則としており、この審議会でも傍聴者を認めております。また、会議の議事概要として、発言内容を発言者の氏名とともに、市のホームページ等で公開いたしますので、ご了承くださいと思います。

本日は傍聴希望者がおりますが、委員の皆様、入室いただいておりますでしょうか。

(傍聴者入室)

○山崎課長

それでは、議事に入りたいと思います。

初めに、会長によりご挨拶をいただき、以降の議事進行をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○浅川会長

本日は皆様、暑い中お集まりいただきありがとうございます。

令和6年度の第1回の審議会ということで、また1年間どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、この後の施設見学もありますので、早速ですが議事に移りたいと思います。

最初に報告事項、江別クリーンセンター延命工事の進捗状況について、事務局からご報告をお願いいたします。

○西川係長

施設管理課の西川です。

私から環境クリーンセンター延命化工事の進捗について説明いたします。

環境クリーンセンターの概要ですが、燃やせるごみの処理方式は、ごみ熱分解燃焼溶融方式で、処理能力は、24時間で最大70トン进行处理できる炉が2炉あり、合わせて140トンのごみ进行处理することができます。

燃やせないごみの処理方式は、1次破碎に2軸せん断式、2次破碎に高速回転式を採用し、2つの破碎機でごみを細かく破碎し、鉄類、アルミ類を選別し、資源物として売却しております。

処理能力は1日5時間の運転で35トン进行处理することができ、どちらの施設も平成14年12月から稼働しています。

それでは、延命化工事について説明します。

環境クリーンセンターは、令和3年度末に、運転開始から耐用年数と言われる20年が経過することから、平成29年に延命化、建て替え、建て替えプラス生ごみ処理施設の方法で比較検討を行った結果、現施設を整備し、令和18年度までの15年間延命化することを決定しました。

今後も安定的な処理を継続するため、令和4年度から令和7年度までの4か年で機能保全及び長寿命化、さらには二酸化炭素排出量削減を図ることを目的とした延命化工事を行っています。

環境クリーンセンター延命化工事の概要として、燃やせるごみ処理施設の工事概要ですが、受入供給設備のごみクレーンや、ごみ破碎機の整備、各種電動機、油圧装置の更新、熱分解設備の熱分解ドラムの保温強化、燃焼溶融設備の各種バーナー更新等、各設備機器の更新整備を行うものです。

燃やせないごみ処理施設の工事概要では、受入供給設備のごみ受け入れコンベアや、破碎設備の回転式破碎機の整備、各種電動機、油圧装置等の更新整備を行うものです。

次に、燃やせるごみ処理施設の工事のうち、ごみ破砕機更新は、ごみを細かく砕き次の工程の熱分解を安定させる前処理設備で、刃の摩耗が進んだため新しい刃と交換し、ごみ処理の安定化を図ります。

また、ごみ破砕機を動かしている油圧装置も更新し、消費エネルギーの低減を図っています。

ごみ供給コンベア更新は、ごみ破砕機で細かく砕いたごみを熱分解ドラムごみ供給機へ送り込む装置で、コンベアチェーンの経年劣化や躯体部分も腐食があるため、機器全体を交換しています。

また、動力モーターも交換し、消費エネルギーの低減を図っています。

熱分解ドラムは、ごみを空気のない状態で、約1時間450℃で蒸し焼きにし、熱分解ガスとカーボンに排出する装置で、ごみを蒸し焼きにするための熱の放出を防ぐため、保温材がびっしりと取り付けられており、熱分解ドラムの金属加工を施した後、保温材の劣化が進んでいたため交換しています。

始動用加熱炉は、施設立上げ時に熱分解ドラムの熱源となる加熱空気の温度維持に使用する装置で、経年劣化により、耐火材にひび割れが生じたため耐火材を解体し、新しい耐火材を打ち直ししています。

純水装置と受水槽更新は、環境クリーンセンターには発電用のボイラーが設置されており、この発電で環境クリーンセンターの大半の電気を賄うことができます。

発電用のボイラーは、配管に不純物が付着堆積すると破損等のトラブルが起きるため純水を使用しており、受水槽は純水の元となる水道水を貯留するタンクで、災害時にも安全に施設を立ち下げるため、保有水量を増加させたものに更新しています。

次に、ボイラー給水ポンプは、発電用のボイラーに水を供給するためのポンプで、メンテナンスは継続して行っておりましたが各部の摩耗や経年劣化のため更新しました。

また、ボイラー給水ポンプに関しましてもモーターを交換し、消費エネルギーの低減を図っています。

脱塩残渣処理装置は、排ガス中の灰を取り除くバグフィルタや廃熱ボイラーから排出されたパウダー状の灰にセメントと重金属固定剤を添加し成型処理する設備で、脱塩残渣処理装置の一部に成形機が含まれ、主要部の整備、モーターを交換し、消費エネルギーの低減を図っています。

高圧ケーブル更新は、北海道電力から受電したポイントから環境クリーンセンターの電気室までの間のケーブルの更新を行ったものです。

工事の進捗は令和5年度末までの工事で、進捗率は約43%となっており、今後の工事については、各空気圧縮機改良更新、ごみクレーン改良部分更新、熱分解固形物コンベア改良部分更新、加熱空気送風機誘引送風機改良部分更新などを行い、令和7年度の延命化工事完了に向け、安全に工事を進めて参ります。

○浅川会長

今の報告について、何か質問ご意見などがあればお願いいたします。

○中井委員

工事内容については、素人では分かりにくいかもしれませんが、延命化工事で二酸化炭素の排出量削減を図ると述べられているのですが、改修によりどれだけ二酸化炭素の排出量が減るのか説明していただきたい。

延命化を決定する時にはその部分は曖昧で、新しい市長も執行方針のときに、ごみ処理で二酸化炭素を削減すると言っているわけですので、具体的なデータがございましたらお願いいたします。

○西川係長

延命化工事を行うに当たり環境省から交付金が出るのですが、その交付要件の中にCO2の削減3%以上ということがうたわれておまして、削減させるのは当然なのですが、市といたしましては7%程度のCO2削減になるのではないかと考えています。

○中井委員

完成時点で7%削減と理解してよろしいですか。

○西川係長

はい。

○中井委員

CO2削減のパーセントは分かりましたが、排出量として教えていただきたい。

○西川係長

CO2が何トン減るかというお話だと思いますが、本日資料を持ってきていなかったもので、今は概ね7%減るとしかお答えはできません。

○森山委員

環境クリーンセンターの延命化工事の部分もあって指定ごみ袋が値上がりするのであれば、江別市のホームページとかにこういう写真を載せるとやっぱり意識がちょっと変わるような気がします。

高齢の方とかで見られない方には、回覧版などに載せると値上しないといけないのが伝わると思います。

○坂本係長

今後の参考にさせていただきます。

○河野委員

ごみ処理の仕組みで、スラグヤードとか埋め立てるごみとかの行き先を教えてくださいませんか。

○西川係長

燃やせるごみの施設から出るもので、主にスラグというものがありまして、これはアスファルトに混ぜて路盤材に使ったり、現在は民間の最終処分場の下地に使っていただいております。

あと、脱塩残渣というパウダー状の灰ですけども、これは使い道がないので最終処分場に埋め立てということになります。

これは飛散しないように、セメントと重金属固定剤という重金属が溶け出さないようにする薬品をまぜて固めて最終処分場に埋め立てております。

あと、鉄くず類は燃やせるごみの施設からも出てきますので、これは業者に売却してリサイクルに回っております。

このほか燃やせないごみ処理施設から出る鉄とアルミはそれぞれ金属の回収業者に売却してリサイクルしている状況になっております。

○河野委員

素朴な疑問ですけども、この最終的に埋めるごみは、この施設内に埋めているのですか。また、埋立地が一杯になったらどうするのですか。

○西川係長

環境クリーンセンターの敷地内に最終処分場があり、そこに埋立てており、また、今使用している最終処分場は令和10年で一杯になる見込みのため、次の処分場を造成する計画を進めています。

○浅川会長

他に何かございますか。

特になければ、次に、報告事項の2つ目になります。

ごみ処理手数料改定、収集日見直しに係る市民周知の状況についてご説明をお願いいたします。

○坂本係長

廃棄物対策課庶務係の坂本です。

私からごみ処理手数料、収集日等の見直しに係る市民周知の状況についてご説明いたします。

資料2をご覧ください。

初めに1のチラシ等配布状況についてであります。5月にA3版周知用チラシを全戸にポスティングしております。

また、7月には広報えべつ7月号にA4版周知用チラシを織り込んでいます。

今後、9月に分別の手引き、収集日カレンダー、ごみコミえべつを全戸にポスティングする予定であります。

次に2の市民説明会の開催状況についてであります。記載のとおり、5月22日から7月24日まで19回開催し、参加人数の合計は139人です。

なお、6月21日と7月16日の説明会は、参加者0名のため中止しています。

次に、3の出前説明会の実施状況は、これまで6団体から申し込みを受けて説明に伺ったもので、参加人数の合計は333名です。

また、8月以降にも6件、出前説明会に伺う予定であります。

なお、市民説明会での質疑応答の概要を、資料2-2にまとめてお配りしております。

○浅川会長

それでは各委員からご意見やご質問等ありましたらお願いいたします。

質疑応答の資料は結構分量があるので少しご覧いただいて、もし何かありましたらどうぞ。

○森山委員

3ページの市民会館の3番目で他市では草木をリサイクルしているが江別市もリサイクルしないのかというところで、何か現状リサイクルするのは難しく今後の課題と考えていますと書いてあるのですが、何でリサイクルできないのかお聞きしたい。

あと、出前説明会のその他でムスリムの方が200名も来ていますが、これは江別市在住の方ということですか。

○坂本係長

出前説明会のその他の団体で200名のムスリムの方々ですが、こちらは主に江別市在住のパキスタンの方々に、何かの団体というよりはその国の方々の宗教的な集まりがあったということでしたので、そこに伺って説明をさせていただいたということです。

○中村主幹

草木のリサイクルですが、主に堆肥化する場合は、集めた草木を堆肥化するような場所が市内になく、また、車両や人員等の体制を確保する必要があるほか、できた堆肥を使ってもらえるかという課題もあります。

堆肥化すると匂いの問題もありますので、市街地近辺では難しく、また、収集経費も車両1台当たり1,500万円から2,000万円かかることが考えられます。

近隣市では最終処分場跡地で堆肥化を行い市民に無料配布していますが、その辺を総合的に考えて今後の課題と考えております。

○中井委員

5月に配布した手数料改定・収集等見直しのチラシがありますが、手数料を上げるのは、近年の人件費の上昇とか物価高騰という、当然ですけれども環境の改善が必要で、こうした費用がかかり財源が必要だということを具体的に数字で書いていくべきだと思います。

市民も環境クリーンセンターの延命化が環境保全に寄与するという事になれば、ごみ袋の値上げにも少しは理解できると思います。

それから、こちらのチラシで、ごみ処理の手数料負担の3分の1は排出者で、その他は市の財政負担だというふうに、市の行政の中で、ごみの処理の手数料とか、前回のときに吉田委員からもありまして、基準財政需要額を決める中にもきちんと盛り込まれているわけです。

ですから、そうしたことも含めて市の財政状況など全体的な説明を市民にすべきだと思います。

今更遅いかもしれませんが、今後説明していく中で市民の理解を得るのに今の2点をぜひ加えていただければと思います。

○坂本係長

今回はこのようなチラシの内容になっておりますけれども、今後そういったご意見も踏まえて、参考にさせていただきたいと思います。

○森田委員

私も説明会に参加したのですが、値上げに関する周知徹底についてなんですが、やはり参加人数を見てもかなり少なかったですし、特に4の中央公民館はあまりにも少なかったように思われました。

やはりもう少し町内会単位でもいいかと思うので、町内会の役員などにこの値上げに関する周知徹底について、町内会の回覧だとかにお願いしてもいいのかなと感じました。

もう一つ聞きたかったんですけども、この質疑応答の資料の10ページに野幌鉄南地区センターのところの質問事項の中で、最近スーパーやコンビニでセルフレジが進んでいるので、今後指定ごみ袋の1枚売りができなくなるのではないかとこのところですが、今後の状況を踏まえて対応を検討するという市の回答ですが、テレビだったと思いますが、スーパーで1枚売りを積極的にやっているところがあったのですが、マイバッグを忘れてきた方がごみ袋を1枚購入して、それをマイバック代わりにしていたので、そういう1枚売りもうぜひ検討していただければと感じたところです。

○坂本係長

初めに、自治会への周知徹底をということですが、既に自治会から8月と9月に説明会お願いするという事でお申し込みを受けており、そちらで説明をさせていただきたいと思っております。

次に、ごみ袋の1枚売りができなくなるのではないかとのご意見のところですが、実際はお店の方では1枚売りをしているところです。

指定ごみ袋はやはり処理手数料なので、現在20リットル1枚40円ですとちょっとお値段は高いと思いますが、レジ袋としてご利用していただくのは構いませんし、レジ袋として使った後、ごみ袋として使えるので、そういった感じでやっていただきたいと思います。

あと、セルフレジでは、まだ具体的に1枚売りができないなどの問い合わせがなく、どのような対応が必要なのか今後の課題とさせていただきたいと思っております。

○森山委員

説明会の開催場所についてなんですけど、多分、公民館とか地区センターとかでやるとお母さん方とかは周知しても集まりにくいと思いますし、説明会が日曜日だけだと、月曜日から金曜日まで働いている方は夜もちょっと忙しくてなかなか来てくれないのではと思いました。

大学とか子育て支援センター「ぽこあぼこ」とか、何かそういう色々な情報共有して広がっていくような場所で開催するのはどうかなと思います。

○中村主幹

今お手元にあるチラシには、市民会館など3地区の公民館しか載っていませんが、広報えべつ6月号に他の説明会の会場を載せていました。

さらに市の公式ラインでも追加の説明会の情報を載せていたところです。

説明会は資料2にありますように6月から文京台地区センターから始まりまして、7月まで各地区センターや自治会館で11回開催しています。

この他に、6月22日と23日に開催された環境広場でも、専用のブースを設けさせていただきましたが、皆さん素通りされている方が多かった感じがしました。

また、各地区センターでは、お母さん方がお子さんの習い事で待っている間、隣の部屋で説明会をやっているのですが、皆さんあまり関心が無いようなこともあり、なかなか「ぽこあぽこ」や大学で説明するのは難しいと考えています。

ただし、市内の4大学には、6月中に学生課と調整して、学生専用の情報発信ポータルサイトで制度変更の情報発信をお願いしているほか、学生課の窓口にもチラシを置かせていただいております、さらに今後は、学生さんが多く住む文京台や野幌若葉町の共同住宅に、専用のチラシを作ってポスティングする予定であります。

○森山委員

何か大学で説明会を開催すれば、質問とかアイデアとか大学生さんの方の若い考え方も聞けるのかなと思ひ、大学でやってくれたら嬉しいなと思っただけです。

○中村主幹

今後、今回のような生活に関わる制度変更の時には、その都度大学側と調整しながら学生のアイデアも生かせるような場を設けるよう努めたいと思ひます。

○吉田委員

次の値上げのことの質問がかなり多いですね。

今の計画期間の中では値上げはしないのは決まっていますのでしようけれども、その次もなかなか難しいという回答があるのですが、難しいかどうかは分からないのと、単価だけではなく、固定費の部分とか総合的な金額で出てきているものがあると思ひますので、まずはみんなでごみを減らしませんかっていうのも今後は付け加えたらいかがなのかなと思ひます。

それがこの審議会の目的でもありますので、単価が上がることだけではなくて、全体でごみを減らしてって、その中でこの価格で何とか3分の1ルールとかを維持できるように、皆さんでごみを減らしませんかっていうような呼びかけを付け加えていただきたいと思ひます。

○浅川会長

他になければ、ごみ処理手数料改定・収集日等の見直しに係る市民周知の状況についてはこれで終わらせていただいて、3点目のペットボトルの水平リサイクルについて、ご説明お願いします。

○中村主幹

廃棄物対策課の中村です。

私からペットボトルの水平リサイクルについてご説明いたします。

資料3をご覧ください。

はじめに、1の経緯についてであります、市町村が集めた使用済みペットボトルは、容器包装リサイクル法に基づき、国が指定した容器包装リサイクル協会に引き渡してリサイクルすることが多く、当市も容器包装リサイクル協会へ引き渡しています。通称指定法人ルートといいます。

しかし、近年は、リサイクル業者と、飲料メーカーが連携して、使用済みペットボトルを、新しいペットボトルに再生する水平リサイクルの取り組みが進んでいます。通称独自ルートといいます。

水平リサイクルは、化石由来の原料を使用して、ペットボトルを作るより、CO2の削減と資源循環に繋がることを期待できるため、指定法人ルートから水平リサイクルの独自ルートへ切り替える自治体が増えており、当市においてもゼロカーボンの一取り組みとして、水平リサイクルを進めるものであります。

次に、2の使用済みペットボトルのリサイクルについてであります、表に記載のとおり、指定法人ル

ートは、市町村はリサイクル方法を定めることができませんが、独自ルートは水平リサイクルとして市町村が用途指定することができます。

次に、3の道内各市の状況についてであります。当市が5月に各市の状況調査した結果であります。

既に水平リサイクルに取り組んでいる市が14、検討中が5、今後も水平リサイクルに取り組まないが15となっています。

最後に4の今後のスケジュールについてであります。今年度中に水平リサイクルする業者を選定し、来年度から水平リサイクルを実施したいと考えております。

○河野委員

指定法人ルートを独自ルートにするのには、何かお値段が違うとかそういう理由があったりするのですか。

○中村主幹

指定法人ルートというのは、国が容器包装リサイクル法で定めているルートでして、ペットボトルの価格が下落して民間の独自ルートで引き取ってくれない時でも、引き取ってくれる安定的なルートです。

一方独自ルートは、過去にはペットボトルを原料として価格が高騰している時は直接高く買ってくれますが、価格が下落すると買ってくれなくなることもありました。

ただ、今は独自ルートもしっかりしてしまっていて、水平リサイクルというリサイクル方法に取り組んでおり、そういう部分では独自ルートの方も広がりを見せている状況です。

○中井委員

指定法人ルートと独自ルートがあるのは分かるのですが、今度これからは全部独自ルートにするということなのか、それとも指定法人ルートも残して、一部独自ルートもやるということなのか教えていただきたいと思います。また、独自ルートの方は結構条件が厳しいようなのですが、その辺は大丈夫なのですか。

○中村主幹

市としては高く売れるとか売れないではなく、適正にリサイクルすることを前提とし、その次にリサイクルする方法が、より環境に良い方法なのかどうかを考える必要があると思います。

指定法人ルートと独自ルートを両方併用する方法もありますし、安定的に水平リサイクルができる確証が高くなれば、徐々に独自ルートの方を増やす方法もありますので、そのことも含めて今後、業者を選定したいと考えています。

○浅川会長

水平リサイクルによるゼロカーボンに向けてのメリットという点で確認したいのですが、指定法人ルートの場合は、いろいろな用途に使っていくとのことですが、水平リサイクルの場合はどのような方法なのですか。

○中村主幹

独自ルートの水平リサイクルは、方法が3種類ぐらいありまして、ケミカルリサイクル、マテリアルリサイクル、メカニカルリサイクルがあり、それぞれ長所短所はあるのですが、例えばケミカルリサイクルはペットボトルを石油由来の成分まで化学的に分解してペットボトルに再生し、マテリアルリサイクルは粉碎洗浄してペットボトルの材料となるフレークにする方法で、ケミカルの方は、いわゆる化学的に何回も再生することが期待できるのですが、化学薬品にどれだけエネルギーがかかるのかなどの課題があります。

一方、マテリアルの方はいわゆる粉碎するだけなのでそこにかかるエネルギーは少ないけれど、汚れを落としてフレークにすると、徐々に原料が減る部分もあるので、一番良いリサイクルは何なのかということも考える必要があります。

いずれの方法も40%以上のCO2削減が期待でき、今よりも石油由来の天然資源を使わなくて済む

方法ですが、いろんな方法を比べてその状況を見ながら、ペットボトルを水平リサイクルに回す量を全量にするのか半分にするのか、どの方法でリサイクルするのも含めて事業者を選定したいと思います。

○浅川会長

ペットボトルの製造過程での天然資源の直接新規の投入を減らすという意味で、カーボンゼロに近づくとのことですね。

○星委員

水平リサイクルを実施しない市が15ありますが、江別市の方向性は、独自ルートの水平リサイクル業者に任せる形になって、水平リサイクルという方法に近づいていくと思うのですが、他市で実施しないのは何か大きなデメリットがあるのでしょうか。

○山崎課長

実はあまりデメリットはないと思うのですが、先ほどもご説明させていただいているとおり、容リ法に基づいて指定法人に出しているのは、必ず引き取られる訳です。

独自ルートはやはり市況や流通状況によって、もしかしたら引き取らない可能性が全くないわけではないと思いますが、今の時代、そのペットボトルを粉砕してフリーでリサイクルするだけでなく、もう一度飲料水の容器になる方が、非常に地球にはやさしいわけですから、水平リサイクルに進むのは正しい方法なのだろうと思います。

あと水平リサイクルを実施しないとしている市の中には、既に指定法人ルートで水平リサイクルにしている業者も結構いる。ただ、100%ではないので、あなたの市から出たものを水平リサイクルにしているとは言えないということなのです。

それぞれエリアごとに業者が例えば50%を水平リサイクルで、残りはフリーでリサイクルしている場合、その市のペットボトルは水平リサイクルなのですかと言ったら、半分ぐらいという答えになってしまうことがあって、この15市の中では、そういうことで水平リサイクルの部分もあるから現状のままでよいと考えている市もあると思います。

○浅川会長

そのほか何かございますか。特にないようでしたら、次の電子タバコの収集方法の変更についてご報告をお願いいたします。

○中村主幹

電子タバコの収集方法の変更についてご説明いたします。

資料4をご覧ください。

はじめに、1の現状と課題についてであります。リチウムイオン電池などの充電式電池は、発火の恐れがあるため、市では令和元年10月から危険ごみとして収集し、JPRC電池工業会に無料で引き渡してリサイクルしています。

一方、充電式電池を取り外せない電子たばこはメーカー側の自社支店で自主回収を行っていますが、当市に回収拠点はなく、現在は不燃ごみとして収集しています。

このため、電子たばこによる収集処理時の発火事故防止に向けた対応を進めるものです。

次に、2の10月からの収集方法の変更についてであります。電子たばこは充電式電池と同じ袋に入れて、危険ごみとして収集します。

次に、3の近隣市の状況についてであります。電子たばこは恵庭市を除く各市で無料収集しており、今回の変更で江別市も無料収集を実施することになります。

次に、4のその他として、電子たばこ以外の充電式小型家電の排出方法ですが、電気カミソリやコードレスクリーナーにも充電式電池が内蔵されているため、市では本体から充電式電池を外して、充電式電池は危険ごみに、本体は不燃ごみで出すよう周知していますが、外すことが難しい場合は環境クリーン

センターで作業員が取り除いており、また、収集業者から、充電式小型家電の収集時に充電式電池を取り除くため、指定ごみ袋に充電式電池が入っていることを記載して欲しいとの要望があります。

このため、充電式電池を外すことが難しい場合は、不燃ごみ排出時に充電式小型家電が入っていることを指定ごみ袋に記載するよう分別の手引きなどで周知して参ります。

最後に、5の今後のスケジュールですが、今年度は紙おむつの無料収集など分別の見直しに合わせて、手引きを改訂しますので、9月に全戸配布する分別の手引きやごみコミえべつに掲載して市民に周知し、10月から運用する予定です。

○日高委員

私の立場から言いますと収集運搬業者でありますから、今後不燃ごみが入っていることをごみ袋に記載していただくのは市民の善意で、書いていただくと車両の火災対策ができ、防止することができるので、これは非常に助かるという率直な意見でございます。

また、電子たばこについてもほかの地域と同じように無料収集してくれるということですので、この変更事項に関して私自身は賛成します。

ただ、市民の方々がリチウムイオン電池等が内蔵されているかされていないか、これは100%わかることではないので、すべてが網羅されることではないですが、気づいた時点で指定ごみ袋に記載することによって、少しは緩和される処置となることだと思っていますので、私はよろしいのではないかと思います。

○浅川会長

そのほかに電子たばこの収集方法の変更に関してご意見等ございますか。

特になければ、事務局から何かございましたらお願いいたします。

○山崎課長

それではあらかじめご案内しておりましたとおり、これから環境クリーンセンター内部の施設見学を行いたいと思いますが、見学終了後、15時半に先ほどのバスに移動していただいて、15時45分頃に市役所本庁舎へ到着を予定していますので、委員の皆様よろしくお願いたします。

○浅川会長

ありがとうございました。ほかになければ事務局にお返しいたします。

○山崎課長

それでは、本日の議事日程を終了させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

【閉会】